

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は様々な事情を持つ人々が学びを求めて、一同に集う学校である。このような生徒に寄り添い、個々に応じた教育活動を実践し「入学してよかった」と言われる学校をめざす。

① 生徒が自分の未来を創造できる学校：基礎学力を身につけ、社会の一員として活躍できる人材を育成する。

② 生徒一人ひとりが大切にされる安全で安心な学校：規範意識を育て、互いの違いを認め、周囲への気配りのできる人材を育てる。

③ 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校：連携を通じて愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1. 基礎学力の定着
- (1) 「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり
- ア. ICTや視聴覚教材を取り入れた、興味・関心を高める授業の推進
- イ. 規則正しい学校生活を通して授業規律を確立し、学習環境の充実をはかる
- ウ. 生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫をおこなう
- ※学校教育自己診断で「学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率(R1 84% R2 85% R3 89%)をR6年度には89%を維持する。
- ※学校教育自己診断で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率(R1 58% R2 67% R3 75%)をR6年度には78%にする。
- ※新入生の2年生への進級率 (R1 71% R2 89 % R3 82%) をR6年度には85%にする。
- (2) 図書館の利用を促進する。(生徒一人当たり平均利用回数：R1 5.0回 R2 - 回 R3 7.9回)をR6年度には8.5回にする。
2. 自尊感情の育成
- (1) 人としての倫理観や規範意識を確立する
- ア. 互いを認め、ともに高めあう人間性の育成
- イ. 命の大切さ、善悪の判断等について指導する
- ※学校教育自己診断で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率(R1 75% R2 83% R3 87%)をR6年度には87%を維持する。
- (2) コミュニケーション力の向上
- ア. 挨拶のできる生徒を育てる
- イ. 学校行事へ積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる
- ウ. 体育祭、文化祭等の行事において、保護者、地域、中学校教員と積極的に連携、交流をはかる
- ※学校教育自己診断で「自分はあいさつをしている。」の肯定率(R1 69% R2 71% R3 72%)をR6年度には75%にする。
- ※学校教育自己診断で「体育祭、文化祭などの学校行事は、みんな楽しい。」の肯定率(R1 74% R2 72% R3 74%)をR6年度には75%にする。
- (3) 家庭、中学校、地域との連携強化
- ア. 必要な情報を速やかに発信し、情報共有を密にする事により、学校、家庭、中学校、地域が一体となり教育活動を進める。
- イ. ボランティア活動の継続
- ※保護者向け学校教育自己診断で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率(R1 85% R2 93% R3 83%)をR6年度には90%にする。
- (4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実
- ア. フォローアップコーディネーターを中心とした、個々のニーズに応じた支援体制を強化する。
- ※学校教育自己診断で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率(R1 72% R2 70% R3 81%)をR6年度には81%を維持する。
- ※中退率 (R1 12.5% R2 4.2 % R3 5.3 %) をR6年度には8%以下を維持する。
3. キャリア教育の充実
- (1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。
- ア. 進路に関する十分な情報を生徒へ提供するとともに、保護者との連絡を密にし、学校・家庭が一体となって指導にあたる
- イ. ガイダンス機能の充実をはかり、1年次より継続的に個々のニーズに応じた進路指導を行う。
- ウ. 就労体験・応募前見学を進め、就職希望者の進路決定率を向上させる。
- ※学校教育自己診断で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率(R1 79% R2 84% R3 82%)をR6年度には84%にする。
- ※学校教育自己診断で「進路指導に関する問No.15・16」の肯定率(R1 75% R2 82% R3 82%)をR6年度には85%にする。
- ※卒業生の進路決定率(R1 61% R2 64 % R3 64 %)をR6年度には64%を維持する。
4. 学校力の向上
- (1) 教員力の向上
- ア. 授業見学、研究授業等により、授業力向上に取り組む。
- イ. 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。
- ※学校教育自己診断で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率(R1 78% R2 79% R3 84%)をR6年度には84%を維持する。
- (2) 職務の効率化
- ※年間時間外勤務 240時間以下
- ※年次有給休暇の取得率 70%以上
- (3) コンプライアンス意識の向上
- ア. 不祥事の防止、個人情報管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる。
- イ. セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報管理体制を強化する。
- (3) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R3年度値〕	自己評価
1 基礎学力の定着	(1)「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり	(1) ア・1人1台端末を活用し、併せてICTや視聴覚教材を取り入れ、わかりやすい授業を実施する。 ・1人1台端末の有効活用、授業展開のさらなる工夫により、生徒が積極的に参加できる、双方向の授業を実施する イ・挨拶運動、巡回指導、携帯指導を継続する。 ・教員が授業中の状況が落ち着いたことに満足せず、中抜け、無断早退の指導を継続し、授業規律を確立する。 ・これらにより、さらに授業に集中できる環境づくりを進める。 ウ・1年生に対して入学時、コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、認知能力の把握を行う。 ・毎日1度は授業の最初に「コグトレ」を実施する。1年間継続して実施することにより、認知能力の向上をはかる。 ・年度末に、再度コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、1年間の認知能力の向上を検証する。 ・生徒の特性を理解したうえで、個々の能力に応じて授業内容を工夫し、基礎学力の定着をはかる。 ・1年間実施した後の2年生に対して、コグトレの効果の持続性を検証する	ア・学校教育自己診断で「学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率を維持する [89%] ・授業アンケート「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の学校平均を0.02上げる。 [3.28] イ・学校教育自己診断で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率を2ポイント上げる。 [75%] ・授業アンケート「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている。」の学校平均を0.02上げる。 [3.38] ・早退者数400件以下を維持する。 [336] ウ・コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストの結果が向上した生徒の割合を80%を維持する。 [80%] ・新入生の2年生への進級率を85%にする。 [81%]	
	(2)図書館の利用を促進する	(2) ・図書館の授業での活用を促進し、本に触れる機会を増やす。	・図書館の生徒一人当たり平均利用回数を8.4回にする。 [7.9回]	
2 自尊感情の育成	(1)人としての倫理観や規範意識を高める	(1) ア、イ ・全教員により、授業、HR、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、学校行事において指導する。加えて、外部人材を積極的に活用する。 ・万一、新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合でも、差別事象が発生しないよう全教員で指導する。	ア、イ ・学校教育自己診断で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率を維持する [87%] ・差別事象の0を維持する。	
	(2)コミュニケーション力の向上	(2) ア・あいさつ運動は継続して実施する。受け身のあいさつだけではなく、自分からあいさつすることをHRや集会においてより一層促し社会人としての素養を身に付けさせる。 イ・生徒会が中心となって行事の企画運営を行う。 ・行事の参加率を上げる。 ウ・保護者への連絡の徹底と地域、中学校への情報発信（HPや訪問）を活発にする。	ア・学校教育自己診断で「自分はあいさつをしている。」の肯定率を1ポイント上げる。 [72%] イ・学校教育自己診断で「体育祭、文化祭などの学校行事は、みんな楽しい。」の肯定率を1ポイント上げる。 [74%] ・行事の参加率を62%にする。 [体育祭、文化祭の平均59.5%] ウ・体育祭、文化祭への来場者数を300人以上にする。 [R1年度293名]	

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

	(3) 家庭、中学校、地域との連携強化 (4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実	ア・メール、HP を活用し、コロナに関することなど緊急性のある情報に加えて、日々の学校の様子などを積極的に発信し、保護者への情報伝達を迅速かつ密に行う。 ・学校説明会を3日間実施し、保護者、地域、中学校教員へ開かれた学校づくりをめざす。 イ・ボランティア清掃を各定期考査終了後4回実施する。 ア・フォローアップコーディネーターを中心にSC、SSW と密接に連携を取りながら、生徒支援委員会が中心となって活動する。ここで得た情報を全教員で共有することにより、一貫性のある指導を実施する。	ア・保護者向け学校教育自己診断で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率を2ポイント上げる。 [83%] イ・1回当たりの参加者を35名以上にする。 [30名] ア・学校教育自己診断で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率を維持する。 [81%] ・中退率8%以下を維持する。 [5.3%]	
3 キャリア教育の充実	(1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。	ア・就職慣行の見直しなど、生徒・保護者の進路に関する理解を深めるため進路保健部と担任団が一体となって情報提供を行う。 イ・1年次より進路HR を実施し、進路選択について考える機会を設定する。 ウ・新たな就職慣行にも対応した就労体験、応募前会社見学を実施し、就職希望者の進路選択の機会を増やす。	ア・学校教育自己診断で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率を2ポイント上げる [82%] イ・学校教育自己診断で進路指導に関する問「将来について考える機会がある」「進路情報を伝えてくれる」の肯定率を維持する。 [82%] ウ・卒業生の進路決定率64%を維持する。 [64%]	
4 学校力の向上	(1) 教員力の向上 (2) 職務の効率化 (3) コンプライアンス意識の向上 (4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底	ア・授業見学、研究授業を実施し、全教員で授業力向上に取り組む。 ア・会議の開催数減、時間短縮、ペーパーレス化を促進することで、職務の効率化をはかり、時間外勤務を減らす。また、年次有給休暇の取得を促進する。 ア・職員会議等において、繰り返し不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる。 ・セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報の管理体制を強化する。 ア・校内体制を組み、マニュアルを作成し、全教員に周知する。 ・教職員研修を開催する。 ・新型コロナウイルス感染症予防を徹底する。 ・陽性者が発生した場合、迅速に対応する。	ア・全日制の授業見学を促進し、授業力の向上を図る。参加率を10ポイント上げる。 [30%] ・学校教育自己診断で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率を維持する。 [84%] ・授業アンケート「先生は、わかりやすく説明してくれる」の学校平均を0.02 上げる。 [3.50] ア・年間時間外勤務時間数を120H 以内ににする。 [103H] ・年次有給休暇の取得率を70%以上にする。 ア・不祥事、個人情報の流失、職場のハラスメントの事象を0件にする。 ア・年間1回以上教員研修を実施し、周知できたか。	